
座敷牢

白山菊理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
座敷牢

【Nコード】
N8048K

【作者名】
白山菊理

【あらすじ】
ここから出られないの。

「待ちぼうけ、いくつ数を数えてもあなたは絶対にやってこない。」

座敷牢の中に着物姿の少女が一人。

彼女は生贄になる為に育てられ、この座敷牢から一步も外へは出たことが無い。

「きつ、きつ、参つ……」

彼女が外へと出るときは、生贄になるその瞬間。

足には鎖。決して壊れることの無い鉄格子。運ばれてこない食事。

彼女は分かっていた。生贄になる瞬間だけ外に出られることと、その瞬間は訪れないことを。

「来ない、決して来ないのよ。そうでしょ？」

彼女は誰に問いかけているわけでもなく、微笑を浮かべながらそう呟いた。

「お母様、貴女は温かかった。その温もり、私は今でも覚えています。」

そつと、自分の唇に手を当てて。

「お父様、貴方の厳しさを私は今でも覚えています。」

妖艶に微笑みながら。

「お兄様、貴方は私と随分長いこと一緒でしたね。でも、今日でお別れです。」

彼女はカプツと上品に、それに牙を立てた。

それ、それは人間のであったもの。人間の一部であったもの。腕という名の肉片。

彼女にとってはそれが最期の晩餐であった。

*

「ねえ知っていて？山の麓に広がるあの森の奥深くに食人鬼が住んでいるんですって。」

「ええ、その噂なら知っているわ。没落貴族のお屋敷でしょ？生まれた娘は突然変異で人肉しか受け付けず……って噂よね？」

*

人に相応しいものを食べると、初めて人肉を食べた時にお父様はそうおっしゃった。

初めての肉は女中のモノ。これを食べなきゃ私は殺されるところだ

った。でも、食べても同じ。私は座敷牢へと入れられ、そこで餓死してしまうまで繋がれるはずだったの。

それを不憫に思ったお母様。お父様を殺して私にくれた。そして、お父様が完全にいなくなってしまうと、座敷牢の中で自ら首を切り、肉片：私の食事になったの。それを見たお兄様は、私を殺そうとした。でもね、勢い余って自分で自分を刺してしまったの。こうして私の食事は増えたわ。

でも、今日で終わりね。

彼女は「餓死」への生贄に。飢えと言う名の死神の手に掛かり死んだ。

けれども牢からは出られなかった。

出してくれる人がいなければ、出られる筈も無いのだから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8048k/>

座敷牢

2010年12月31日18時36分発行